

大会申し合わせ事項

1. 大会適用規則

本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則及び本取り決め事項を適用して行う。

2. 競技運営に関する注意事項

- (1) 主将会議で説明または決められた事項は、必ずチーム全員に徹底すること。
- (2) 会場に到着後速やかに**打順表 3 通**を本部に提出し、登録原簿と照合の後、球審立ち会いのもとに**攻守を決定する**。
打順表への記入は、登録された選手全員を記入すること。 なお、女子選手には背番号数字を丸で囲む。
第 1 試合：試合開始予定時刻の 30 分前まで
第 2 試合以降：前の試合の 3 回終了時または試合開始予定時刻の 30 分前のいずれか早い方
- (3) 攻守決定の時に、試合で使用する捕手用ファウルカップ、サングラスを持参し審判による点検を行なうこと。 また**テーピング**等をしている選手がいる場合、**その選手を同伴して申告を行うこと。**
- (4) 参加登録書提出後の選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。
- (5) ベンチに入れる人員は、ユニフォームを着用した監督 30 番、コーチ 29 番・28 番および選手 20 名以内と、チーム代表者 1 名、スコアラー 1 名、マネージャー 1 名とする。ただし、監督、コーチは成人者でなければならない。
- (6) ベンチ入り選手は 10 名以上となるよう努めることとし、大会においては選手 9 名以上で試合成立とする。
- (7) ベンチは抽選番号の若いチームを 1 塁側とする。
- (8) 守備時間が長い場合には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。(試合時間として処理する)

3. 大会特別規定

- (1) 試合は 7 回戦とするが、90 分を過ぎたら新しいイニングには入らない。
- (2) 規定時間が経過したら回数に関係なく正式試合とする。
- (3) 得点差によるコールドゲームは、3 回以降 10 点差、5 回以降 7 点差とする。ただし決勝戦は除く。
- (4) **7 回もしくは規定時間を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。**タイブレーク方式は、**無死満塁・継続打順**で行う。
(前回の最終打者を 1 塁とし、2 塁、3 塁の走者は順次前の打者とする。)
- (5) タイブレーク方式で 2 回を完了しても決着がつかない時は、抽選で勝敗を決定する。ただし、**決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。**
- (6) 暗黒、降雨などで正式試合の成立前に中止になった場合、また正式試合が成立したが同点で**試合が中止の場合は、翌日に特別継続試合を行うことがある。**正式試合が成立しない場合は、打ち切りになったところから試合を行うが、正式試合が成立した場合は、暗黒コールドゲームが宣告される。ただし、決勝戦は再試合とする。
- (7) 抗議権を有する者は、監督か当該プレーヤーとする。
- (8) 変化球を投げることを禁止する。審判員によって変化球と判断された場合は「ボール」とし、監督および投手に嚴重注意する。
注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は他の守備位置につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。
- (9) 投手の投球制限について、1 日 7 イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1 日最大 9 イニングまで投げるができる。なお 3 年生以下にあつては、1 日 5 イニングまでとする。
- (10) 監督が 1 試合に投手の所へ行ける回数は 3 回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、2 イニングに 1 回とする。
- (11) 捕手を含む内野手が、1 試合に投手の所に行ける回数は 3 回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)となった場合は、2 イニングに 1 回行くことができる。野手(捕手も含む)が投手の所へ行つた場合、そこへ監督が行けば、双方 1 度として数える。逆の場合も同様とするが投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。

- (12) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、2イニングに1回とする。
- (13) 試合前のシートバックは行わない。攻守決定後、会場内のブルペンで先発バッテリーに限り練習することを認める。
捕手はマスク、スロートガード、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガーズ、ファウルカップを着用すること。
- (14) 会場内でのバットを使用する練習を禁止する。
- (15) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)、携帯マイク及びカメラ・ビデオの持ち込みを禁止する。
メガホンはベンチ内に1個に限り許可する。
- (16) 選手、監督、コーチはユニフォーム、アンダーシャツ等、全員同形・同色のものを使用すること。代表者、スコアラー、マネージャーはスポーツに相応しい服装とするが、ユニフォームを着用する場合はチームと同一の服装(ユニフォーム、アンダーシャツ等)とし、ユニフォームの上着は監督・コーチと区別できるようにすること。
- (17) 作弄的な空タッグを禁止する。現実には妨害(よるめいたり、著しく速度が鈍った場合)になったと審判員が認めた場合は、オフストラクションを適用する。
- (18) ファウルボールは、1塁側のものは1塁側ベンチ、3塁側のものは3塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理する。
ボールボーイ、バットボーイはヘルメット着用のこと。
- (19) 対戦した両チームの監督、コーチはグラウンド整備に協力すること。
- (20) 楽器等、鳴り物での応援は行わない。また、ウイッツンばかり球場以外ではメガホン等での応援を行わない。

4. 使用球

大会使用球は、全日本軟式野球連盟公認球C号とする。

5. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 試合はスピーディーに運ぶよう努め、1試合の競技時間は90分以内を目標とする。試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
- (2) 各回の先発打者と次打者、ベースコーチは、ミーティングには参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- (3) 打者は、速やかに打者席に入り打撃姿勢をとること。また、打者席内でサインを見ること。
- (4) 試合中スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
- (5) 走者は、ファウルボールが打たれたとき、駆け足で元の塁に戻り触れること。
- (6) 投手は、投球練習は初回5球、2回以降は3球とする。

6. 試合日程の変更について

- (1) 天候不順等で試合中止の判断は各試合会場で行うので、第1試合のチームは会場に集合する。中止の連絡は支部長を通じて行うとともに協会ホームページにも記載する。
- (2) 日程変更の連絡も原則支部長を通じて行うとともに協会ホームページにも記載する。
- (3) 会場準備の必要ある場合、当日試合予定のチームは指定する時間に1名以上集合すること。
- (4) 大会期間中、学校行事(運動会、修学旅行、参観日等)その他協会が認めた行事等は、参加申込み時に2件まで申告することができる。ただし、その場合でも大会日程の都合により変更出来ない場合があると共に授業参観日の場合は当日最後の試合に組み込む場合がある。
なお、申告した行事が学校都合で日程変更になった場合は、試合予定日の2日前までに連絡すること。
- (5) 協会指定上部大会への出場の場合は上部大会日程を優先する。
- (6) 大会日程上の都合でダブルの試合になる場合がある。

平成 30 年度秋季大会における運営上の内規

1. 第 86 回東林少年野球秋季大会について

雨天等により、当初の大会日程が順延になった場合も、学校行事を優先させ、新たな日程を調整し大会を完遂する。試合日程を組むうえで、他大会の兼合いは次の通りとする。

- ・市が直接関係する公式戦（市民選、南区大会、レディース大会等）と上部大会は考慮する。
- ・ローカル大会（関団連、ボーイズ等の大会）は考慮しない。

2. 大会申し合わせ事項に関する内規について

(1) 大会特別規定(1)の項について

後攻めがリードしている状態で試合時間が 90 分を迎えたときの措置

- ① 90 分の時間をもって試合終了とする。
- ② 90 分のベルが鳴った時点で打席に立ちプレー中の場合は、当該バッターの攻撃が完了した時点で試合終了とする。
- ③ 上記のバッターの攻撃により、塁上のランナー及びそのバッターが本塁に到達した場合は、得点とする。

(2) 大会特別規定(4)の項について

日程の都合上、同点の場合の「タイブレーク方式」は実施しない。その場合は抽選において勝敗を決定する。ただし、決勝戦、三位決定戦は除く。

(3) 大会特別規定(9)の項について

投球回数の確認については、次の通りとする。この方法は、各チームの公平性と、チーム指導者・運営側の意識付けを重視した本大会独自のものである。

<管理方法>

- ① 大会本部で、投球管理表を各チーム分用意する。
- ② 各チームの 1 試合目は、本部控え審判が記入作成する。
- ③ 1 試合目終了後、当該チーム監督へ管理表（対戦チーム用）を渡す。
- ④ 2 試合目のメンバー表提出時に、管理表も一緒に本部へ提出する。
- ⑤ 2 試合目のトスの際に、対戦チーム間で確認を行い、トス終了後に当該試合球審は管理表（対戦チーム用）を切り離し、対戦チーム監督へ渡す（確認のため）。
- ⑥ 管理表（自チーム用）は本部控え審判が受領し、引き続き記入する。
- ⑦ 最終登板イニング（4 年生以上：7 回）にあたる場合は、イニング開始時に球審より当該チームへ知らせる。

(4) その他取り決め事項 1

①大会 1 日目 (深堀グラウンド) の試合前アップについて

*集合後から開会式集合までは、第 1 試合該当 2 チームのみ行う。

*第 2 試合該当 2 チームは、第 1 試合実施時間帯にアップを行う。

<留意事項>

- ・ アップはボールを使用しても良い。
- ・ 各チームは、チーム内保護者等にグラウンド内の危険について周知を行うこと。

②センター後方でのアップは試合進行の妨げになるので、行わない。なお、選手の集合、荷物の設置も行わない。

(5) その他取り決め事項 2

過去、深堀グラウンドにて、周辺への路上駐車によるクレームがあった。1 件は、センター側道路への違法駐車であり、もう 1 件は駐車場側の道路への駐車で、工事車両と事故になりそうであった。近隣住民の方からの通報で、相模原市からも嚴重に注意された。

会場の深堀グラウンドや小学校は場所を借用しており、今後もこの様なことが発生すると、大会はもとより使用そのものができなくなってしまう可能性がある。

大会運営としても、密に注意するが、各チームにおいても各保護者へ注意を改めてお願いしたい。特に上鶴間小での開催時は朝の車の進入について、今一度の注意・周知をお願いする。

(6) その他取り決め事項 3

東林小から、駐車場利用に関する以下の連絡がありました。

特に東林秋季大会で東林小を使用する際は注意してください。

7/30~8/26 までの間、☆東林小の貯水タンクの工事が入る為、南門側の校舎裏と中庭は駐車禁止で、グラウンドと正門を入れてすぐ右のみ利用可ということです。

8/26 の大会 2 日目、東林小を利用するチームは指示通りの駐車をお願いします。

(7) その他取り決め事項 4

閉会式の参加は市民選手権の日程も勘案し次の通りとする。

①東林支部所属チーム及び招待チームで最終日の試合に残ったチームは、市が直接関係する公式戦と上部大会 (以下、公式戦等) の試合日程と重ならない限り、登録選手全員参加とする。

②万が一、上記①で公式戦等の試合日程と重なった場合は、チームとして参加しなくても良とする。その際は、大会本部に必ず確認を取ること。

③最終日に試合のない招待チームは、チームとして参加しなくても良とする。

④上記に係わらず、ホームラン賞等の表彰を受ける選手がいる場合は、コーチ等の帯同の元、原則、選手本人が参加すること。やむを得ない場合は代理も良とする。